

認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

# mingle

みんぐる

2014.7  
7月発行  
Vol.45

Top News

4.29「フォーラム」報告



**特集** 作文発表!

「私の国のこと・日本のこと」

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

多文化VOICE 4

卒業生の今 & ボランティアの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

ボランティアの活動報告 8

いいね! 多文化共生センター東京のできごと 9



認定NPO法人

# 多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO

ホームページリニューアルしました!

<http://tabunka.or.jp/>

facebook.com/tabunkatokyo

@tabunka\_tokyo

## 私たちのビジョン

**私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。**

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

### ■ 基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「ところ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

### ■ 少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

### ■ 社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

## 私たちのミッション

**外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。**

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

**外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。**

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通して、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

**国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。**

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

## 私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

### ：たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報を提供しています

### ：教育相談

### ：多言語による高校進学ガイダンス

多くの皆さんに知っていただくための働きかけをしています

- ：外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査
- ：研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー
- ：メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんくる」の発行

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

### ：子どもプロジェクト(学習支援)

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对一でサポート

### ：親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对一でサポート

# 外国につながる子どもたちの 「教育を受ける権利」を考えるフォーラム



4月29日に、「学齢超過」の子どもたちの現状と取り組みについてのフォーラムが開催され、スタッフ関係者を除いて約140名の方が足を運んでくださいました。

このフォーラムで初めて、学齢超過の子どもたちの現状について考える場を持つことができました。これは、学校教育の狭間に置かれている子どもたちの学びを保障するためのスタートであると思います。学齢超過の子どもたちの厳しい状況を多くの方に知っていただき、「子どもたちの教育を受ける権利」としての学びが今後も継続できるよう、引き続き努力をして参ります。

## 外国につながる子どもたちの「教育を受ける権利」を考えるフォーラム

～「学齢超過」の子どもたちの現状と取り組み～

共催：NPO 法人 ABC ジャパン、NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ、  
社会福祉法人青丘社、特定非営利活動法人多文化共生センター東京

### 【内容】

1. 講演「定住外国人の子どもの教育～現状と課題～」慶応義塾大学教授 塩原 良和
2. 共催4団体の報告
3. 「虹の架け橋教室」受託団体の学齢超過の子どもたちの進路に関する調査報告
4. 支援教室で学んでー中国、フィリピン、南米出身の卒業生及び保護者ー



《参加者された方からいただいたアンケートより》

- ・各地でがんばっている方がおられること、心強く思いました。
- ・意義深い活動が日本各地で展開されており、無数の子ども達の将来を切り拓く力になっていることに感銘を受けました。
- ・ぜひ「虹の架け橋教室」などの公的支援を継続、拡大、充実して行ってほしい。塩原先生のお話はこれからの活動の基になる（精神的な支え）と思った。
- ・学齢超過の子どもに対する教育の現状を知ることができ、とても有意義でした。理論的なものと現場にいる人々の話、さらに子どもたちからの話もあり、理解が深まった。
- ・卒業生の声の特によかったです。今後、彼・彼女らにつづく子どもたちの支援を継続していかななくてはという思いを改めて強めました。



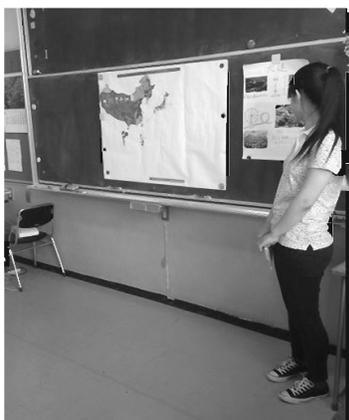


# ～わたしの国のこと・日本のこと～

## <フリースクール本校>

フリースクール本校は、中国、フィリピン、タイから来た生徒たちが学んでいます。交流も兼ね、来日して1年以上たつ日本語1クラス、4月から日本語の勉強を始めた日本語2クラス、そして、日本語の勉強を始めたばかりの日本語3クラス合同で発表会を行いました。

クラスの枠を越えて、みんなで力を合わせて「みんなの国の地図」を完成させ、日本語3クラスは「自己紹介」、日本語2クラスは「私の町」、日本語1クラスは「日本に来て驚いたこと」を発表してくれました。



### ◆私の町

私は中国の大連から来ました。大連から東京まで飛行機で3時間くらいです。大連はいつもいい天気です。冬はあまり寒くないです。夏は27度くらいです。大連の星海広場が一番大きな広場です。夜、ライトがつくと、とてもきれいですから、たくさんの人が見に来ます。広場の隣に遊園地と海があります。海に船があります。とても速いです。マラータンは私の一番好きな食べ物。この料理は野菜と肉と麺と自分の好きなもので作ります。そのスープはとても辛いです。大連の女の人は大好きです。でも、男の人はあまり好きじゃありません。大連の海鮮はとても有名です。でも私はぜんぜん食べません。毎年、大連の星海広場で大きいパーティーがあります。ここに異なる種類のピアホールがあります。みんなはここでビールを飲みます。人がたくさんいますから、とてもおもしろいです。ぜひ、来てください。

(日本語2クラス・中国出身)

### ◆日本に来て驚いたこと

私は小さいときから毎年1回日本に来ています。日本とフィリピンはとてもちがうので、いろいろなことでびっくりしました。特にティッシュをどこでももらえることです。日本に初めて来たとき、池袋へ行きました。人が多くて、歩きにくかったです。そして、歩きながら、たくさんの人が何かをあげていました。「あ、ティッシュなんだ!」はじめてなので、とてもびっくりしました。フィリピンはティッシュは自分で買うしかないから、不便でした。今はティッシュをいつももらっています。ティッシュで広告すると、効果的かもしれません。無料だから、必要がなくてももらえばいいと思います。あとできっと使います。

(日本語1クラス・フィリピン出身)

## 〈フリースクール新宿校〉

中国、フィリピン、タイ、ネパール、アメリカからの5ヶ国18人が勉強している新宿校でも、日本語1クラスで「日本に来て驚いたこと」、4月から勉強をはじめた日本語2クラスには「私の町」の作文を書いてもらいました。

### ◆日本に来て驚いたこと

日本の電車は速いです。けれどねだんが高いです。きっぷを初めて買ったときねだんが高いから、びっくりしました。タイはむりょうの電車があります。けれど遅くて古いです。速い電車もあります。でもちょっと高いから、私はあまりのらないです。日本人はおばあさんとおじいさんが立っていてもゆずらない。タイだとゆずります。

タイの電車は毎日そうじした方がいいです。日本人はおじいさんとおばあさんにゆずったほうがいいです。(日本語1クラス タイ出身)

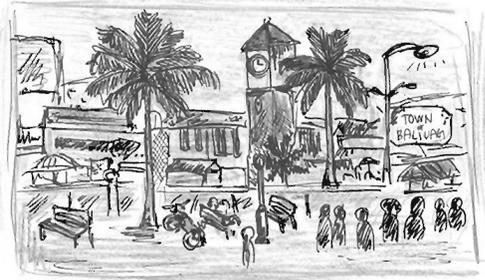
### ◆私の町

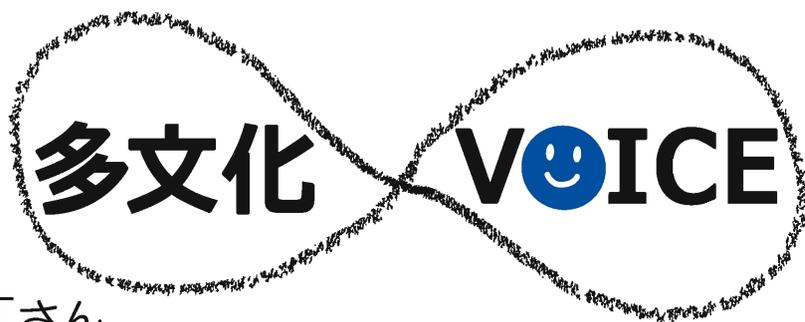
わたしはネパールのにしにすんでいました。Baglungにすんでいました。村です。そのかたちはネパールのちずと同じです(注:村の形とネパールの国の形が同じ)。Baglungは川とたにでゆうめいです。たにのみどりともりはうつくしいです。人口がすくないですが、いろいろなぶんかがあります。たくさんのおてらがあります。Ghumteはゆうめいな山です。ブツダのうまれたところから近いです。(日本語2クラス ネパール出身)

### ◆私の町

BulacanはLuzon州中央にあります。私はBulacanのBaliwagに住んでいました。私の町はBaliwag lechonとよばれるりょうりでいられています。それはスモークしたぶたです。Pastillasとよばれるおかしもあります。ぎゅうにゆうとさとうでできてます。みんなすきです。たくさんのリゾートやうつくしい協会があります。Bulacanにすんでいる人はBulacañoとよばれます。私はBulacañoを誇りに思います。

(日本語2クラス フィリピン出身)





あ ふ そ  
安富祖 富江さん

4月29日に開催しました外国につながる子どもたちの「教育を受ける権利」を考えるフォーラムの共催団体の1つABC ジャパン副理事長の安富祖美智江さんにお話をうかがいました。

私は、安富祖美智江といいます。1991年に来日し、群馬県伊勢崎市にある工場で働くことになりました。日本語が全く理解できないまま仕事を始めたときに、ポルトガル語を全く話せずに移民した両親を思い出しました。

私の両親は戦後の1957年、日本が経済危機に瀕していた時代に、より良い生活を送るという夢を持ち、ブラジルの地に渡りました。

ブラジルでの私の幼少時代は、今日の日本の外国人の子どもたちの状況と同じで、日本語が理解できない私とポルトガル語がうまく話せない両親とで、コミュニケーションを取るのに苦労しました。子どもだったため、学校行事に両親が参加し、間違っただけでポルトガル語を話していたときには、恥ずかしさを感じたこともありました。

週末に祖父母や親戚と集まり、両親と様々な話題や学校生活について話せる、ブラジル人の仲間に羨ましさを感じることもありました。日本にいる多くの外国人の子どもたちは同じような状況にあると思います。外国人の子どもにかかわる人たちには、ぜひこのことを理解しておいてほしいです。

運命の悪戯でしょうか、今では私一人の母親で、娘たちの周りで起こる様々な出来事を理解するのに苦労し、日本の教育やその他のシステムに困難を感じることもあります。それはブラジルでの両親も同じであったに違いありません。

ブラジルでは、小さい頃に両親から日本文化を学ぶよう教えられましたが、両親が沖縄出身だったため、三線(さんしん)を習い日本人コミュニティで歌と一緒に披露することもありました。そのときは歌詞の意味もわからず演奏していましたが、今に

なってみれば、親の文化を学ぶことができてよかったと思っています。

現在は、横浜市にあるNPO法人ABC ジャパンと全国在日ブラジル人ネットワークに勤めています。ABC ジャパンでは、コミュニティの日常生活に関するサポートだけでなく、外国人の子どもたちの教育に関わる活動をしています。

全国在日ブラジル人ネットワークでは、ブラジル人コミュニティのための活動だけでなく、たとえば緊急を要するケースとして、東北の被災地での炊き出しや募金、支援物資の配布、台風被害にあったフィリピンへの募金や支援物資の送付も行いました。

私の目標は、これらの団体の支援により、彼らの親に文化の理解や言語に困難があっても、子どもたちがさまざまな情報を得られやすくなり、より良い未来への道が開けることです。日本にいる外国人の子どもたちはもう一つの文化という武器を持っており、それはこれから様々な場面で多くのチャンスをもたらします。私たちは子どもたちにより良い教育を与える義務を負っています。教育を受けることは子どもたちの権利なのです。



# 卒業生の今

2ヶ月前、多文化の先生に多文化でインターンとして働いてみませんかと誘われたので、多文化にインターンとして入りました。水曜日は事務の手伝いで、木曜日は英語の授業のアシスタントで、週二回通っています。進学にまだ迷っている時にこんないい学習の機会をいただけて、とてもありがたいと思います。

四年前に勉強していた学校に戻って、昔の自分みたいな子たちの先輩として、先生と一緒に勉強することがとても不思議な感じで、誇りに感じます。生徒たちと友だちになって、学校のない日でもメールでいろいろなことを教えたり、初めて日本に来た悩みを聞いてあげたりしています。2ヶ月前始めて多文化に来て、「あいうえお」しか分からない生徒たちが少しずつしゃべれるようになることをすごく楽しみにしています。しかし、レジとホールのアルバイトしかやったことがない私が、初めてオフィスで事務の仕事をすることになりましたので、すごく心配で不安でした。先生やインターンの先輩に電話対応の仕方を教えてもらいましたが、やはり自分の日本語に自信がなく、緊張しています。

多文化に入ってから、いろんなソフトウェアを使って事務の仕事をしたり、多文化のホームページを更新したりしている時に、パソコンが好きになりました。今まで美容の専門学校か、ケーキを作る専門学校に入ることと悩んでいましたが、これからパソコンのことももっと勉強していきたいと考えています。

私は多文化でインターンとして働けて良かったと思います。半分仕事半分勉強で、いつでも先生とスタッフの皆さんが相談に乗ってくれますので、とても安心です。これからも、多文化で卒業生として、先輩として生徒たちと一緒に頑張っ



# ボランティアの声



数年前から、時々多文化共生センター東京に顔を出している、田中 明水（あきと）と申します。

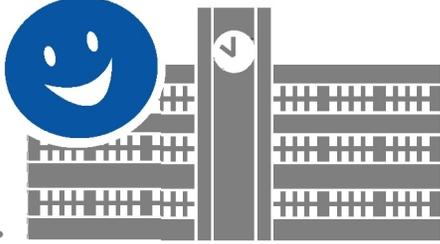
その数年前、私は生活保護世帯の外国にルーツを持つ中学3年生の女の子2人の高校受験勉強を、市民センターの会議室で行っていました。できる限りまともな勉強会にしたいと思い、私は教育関係の古典を読みながら、経済的に困難な家庭の人と一緒に学び、成長することを目的とした団体を見学させていただけないだろうかと考えていました。その流れで「なくそう！子供の貧困」全国ネットワークに出席していた私は、そのネットワーク会議で紹介された多文化共生センター東京へ、見学させてほしいと申し出ました。

多文化共生センター東京の先生たちと子供たちの目を、私は健康的でいいなと感じています。先生たちと子供たちが作っている、あの雰囲気が好きです。そんな中、私のようなとがった人間もはじかず学びを目指して進まれている、多文化共生センター東京の懐の広さに助けられて、私は時々顔を出しております。

私は、育った環境や文化的背景の違いは問題とは考えていません。縁があって直接お会いして会話できる方々が何をすばらしい、美しいと感じて、それを目指す中、何を考えてどのような行動をとられるのかに関心があります。何らかのかたちでそれを感じたいと思うとともに、それを操作する人ではなくて、私もそんな何かすばらしいものや美しいものを目指す社会や人の輪の一部でありたいです。ですから、また時々、顔を出させていただけたら幸いです。

# たぶんか フリースクールの 毎日

TABUNKA  
FREE SCHOOL



## <たぶんかフリースクール(荒川校)>

多文化フリースクールが、三河島から小台に移り、二度目の春を迎えました。昨年は、新しい場所に変わっての初年度でしたので、当初生徒達は来るのかしらと思っていましたが、元気で活発で、自己主張の強い生徒たちが集まって、いつも通りのそれはそれは元気いっぱいの彼らでしたが、受験に対してはしっかり最後まで自分自身の持つ力を発揮し、それぞれの目的に向かっての一步を踏み出していきました。

今年、少ない人数でのスタートでしたが、新たに「ひらがな・カタカナ」からのスタートの仲間も増え、今はゆったりとアットホームなフリースクールです。それぞれ明るく個性豊かな生徒達で授業中は驚きと笑いが絶えません。今年も、中国からの生徒たちが多くいますが、フィリピンやタイからの生徒

も休み時間は一生懸命書き取りの練習をしたりとみんなそれぞれ苦手なことにも前向きです。宿題も今のところしっかりやってきてますし・・・。ただ、アルバイトをしながらの生徒や、家族と離れている生徒、通学時間の長い生徒もおり、心身ともに健康であることをいつも願っています。

初級以外の生徒は、日本語だけでなく、数学や英語の教科学習も始まり、少しずつ勉強の方も難しくなっていますが、昨年度の生徒達の誰もがとても思い出に残ったと語った様々なイベントもだんだん始まってくることでしょう。このフリースクールで過ごす生徒達の時間が彼らの「いま」とそして「これから」に少なからず力となっていけることをいつも願っています。

あらかわこう ふじい せんせい  
(荒川校 藤井先生)



## <ハートフル>

26年度の荒川区日本語初期指導が始まったのは5月下旬に入ってからでした。現在、朝の通室指導、夕方の補充指導合わせて6名の中学生が勉強しています。

補充指導の3名は、今年1月から3月まで通室指導がありました。それから、春休みがあり、補充指導が始まるまで約2ヵ月間指導が中断してしまいました。通室指導時には、ひらがなやカタカナをやっと読み書きしていた生徒が、5月には読み書きも速

くなり、語彙も増え自然な言葉づかいで会話ができるようになりました。本国ではなかった行事や部活動などに参加して、日本の学校生活を送ることが日本語学習にも繋がっているのかもしれない。

もちろん、その他の教科の学習や友人関係の悩みなど、すぐには解決できない問題も多いですが、生徒は休まず学校へ通っているようです。

生徒達はこれから夏休みを楽しみに、学校生活も日本語学習も日々努力しています。

たんど せんせい  
(ハートフル 丹呉先生)

## ＜たぶんかフリースクール新宿校＞

3月に巣立った卒業生が「無事高校生活を始めているかな?」と思っていたのも束の間、4月からにぎやかに新年度が始まりました。昨年度も一緒に勉強していた3人に、新たに「ひらがな・カタカナ」から勉強を始める、中国とフィリピンからの生徒、ルーマニアからの小学生兄弟の6人が加わり9人でスタートしました。「ひらがな・カタカナ」から始めるクラスは1日4時間連続、週5日、約2か月間集中して日本語の勉強をしています。

新宿校はマンションの一室なので、休み時間に体を動かせる場所がなく、元気盛りの小学生兄弟は狭い部屋で、けんか?じゃれあい?をする場面も見られましたが、共通語は日本語のみというクラスで、それぞれ

がお互いに助け合いながら頑張っています。

その後さらにネパールから来た生徒5人、タイ、中国から来た生徒も加わり、6月現在で生徒は18人になり、既に3教室はいっぱいです。身体が大きい男子が多く、7畳の部屋に生徒6人の教室は息苦しそう?で、休み時間は皆少し広い事務スペースで話をしていますが、その内容は?と言えば・・・やはりお年頃の男子、もっぱら女の子の話!

会話授業で「一緒に～しませんか?」という勧誘表現の練習をインターンの女子学生の方とした時なども、気持ちがとてももってました。

言葉や文化の違いなどないことを、生徒から教わる日々です。(新宿校 加藤千秋先生)



## ＜スポーツ交流会＞

6月17日、セールスフォース・ドットコム協力で、社員みなさんと一緒にスポーツ交流会を行いました。子どもたちはとても楽しみにしていて、当日の朝は学校が開くより早く来て階段に座って待っていた子がふたり(スポーツ交流会は午後からです...)。午前中の授業の間もそわそわ。

借りていただいた大きくて立派な体育館に大歓声の子どもたち。みんなスポーツは大好きなのですが、新宿校は狭くて体を動かすことができないうえ、まだ日本に来て間もない子ども達はスポーツができる機会につながる事が難しく、ほんとうに久しぶりにおもいきり体を動かしたという子もいました。

前半は全員でドッチボールをして、後半はバドミントンのトーナメント戦です。決勝戦はクラスの子たちの声援を受け、商品の袋いっぱいのお菓子をかけて、白熱した戦いが繰り広げられました。優勝はネパール出身のGくん。ふだんはひかえめで真面目な彼がスポーツ万能だったことにびっくり、そしてその闘志にもびっくり。校外イベントは、生徒たちの意外な一面を見られる機会でもあります。

最後の自由時間には、フリースクールの男の子たちと社員さん対抗でバスケットボールの試合もしま

した。中国の子もタイの子もネパールの子も、みんな目を覚めるようなプレイを見せてくれました。まだ他の子とあまり交流していなかった2日前から話しはじめた子も自然にチームに溶け込んでいて、スポーツの力を感しました。バレーボールもあり、女の子たちの力強いサーブに「怖い!」と逃げ回るスポーツ苦手男子もいましたが、それぞれとても楽しんでいました。

久しぶりに運動をした子どもたちなので翌日は筋肉痛の子もいましたが、全員が「とっても楽しかった」と笑顔を見せてくれました。(新宿校 中野)



# ボランティア 活動報告



## 親子プロジェクト

親子プロジェクトには小学生が集まる「子どもクラス」と大人が学習する「大人クラス」があります。今年の3月まで「子どもクラス」で学習していた子どもが中学生になり、親子プロジェクトから足が遠のき始めたため、最近の主な学習者さんは大人の方達です。私は今まで子どもの担当をすることが多く、子ども達の言葉を吸収する速さに驚かされていました。上達の早さは子どもの特権かと思っておりましたが、大人の女性Sさんを担当してから、勉強に対する熱心さがあれば大人でも子どもを凌ぐ勢いで言葉をマスターできる事を学びました。

Sさんと最初にお話したのは2月でした。その頃は、ひらがながようやく読めるようになり、カタカナはまだ読めませんでした。会話も文章ではなく単語の羅列で、学習時間の大半を英語で説明しながら進めていました。その3カ月後、彼女は既に過去の出来

事をちゃんと助詞を交えて話せるようになっていました。また、簡単な漢字も覚え始めています。彼女は日本語の勉強を毎日家でしているそうです。わからない事があると、「〇〇とはどう違うのか」など、具体的な質問をしてくる。子どもの場合は「何がわからないのかわからない」ので質問ができないというケースが多々あるのですが、大人は頭の中を整理しながら言葉を吸収できると大人ならではの強みがある事を知りました。

多文化でボランティアをすると、色々な学習者さんと出会い、異文化交流や楽しい経験が沢山出来ます。何より、勉強熱心なその姿に触発され、自分自身もがんばろうとパワーを貰えます。私もSさんを見習って、語学の勉強は諦めることなく続けていきたいと思えます。(福住)

## 子どもプロジェクト

新年度が始まったかと思えば、あっという間に梅雨を迎え、そして夏本番へ。あっという間に、時間は経過していきます。年を重ねるにつれて、1年が過ぎるのをどんどん早く感じるようになるのは、次のような計算で説明できると聞いたことがあります。例えば、1歳の誕生日を迎えた赤ちゃんにとっての1年は人生の100%、例えば、20歳の人にとっての1年は人生の5%、そしておじさんにとっての1年は・・・計算したくないです。

子どもたちにとっての時間は、大人にとっての同じ時間に比べ、ずっと大切だということは、実感でもあります。ついこの前まで、ひらがながおぼつかなかった子どもが、気が付いたら、大人たちと会話ができる

ようになっていたり、気が付いたら、友人同士で日本語でチャットをしていたり。成長の速さに驚くと同時に、与える影響の大きさに大人の側も気が引き締まります。

さて、春から夏にかけては、例年、助走期間です。子どもたちも、まだまだ、受験生という意識は薄いままです。でも、夏休みが過ぎると模擬テストが始まり、志望校選びも本格化、あっという間に受験モード突入です。子どもたちの大切な時間が少しでも有意義なものとなるよう、私たちボランティアも心がけていきたいと思えます。(風間)



 facebook.com/tabunkatokyo

## 多文化共生センター東京のできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフが多文化共生センター東京の毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



63人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

5月19日

男子ばかり 5 人の日本語 1 クラス。今日の作文練習のお題は「おすすめデートコース」。公園で散歩する、レストランに行く、水族館でショーを見るなど、「おすすめデートコース」を考え、情報誌を切り取って写真つきで発表。

「デザートカフェに行きます。トムヤムクンとタイカレーを食べます」

Jくん、たぶんデザートカフェにトムヤムクンはないです。

「この人と一緒にハンバーグを食べます。高くないですし、ロマンですし、しあわせかなあ…」

Tくん、すでに「おすすめ」通り越して「妄想デートコース」ね。

なんだか楽しそうな男子クラスです。



65人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

6月6日

新宿校の日本語 2 クラスは、中国・タイ・フィリピン・ネパール出身の 7 人が、ひらがな・カタカナから勉強しています。最初はまったく日本語でのコミュニケーションができず、お互いに「おはようございます。私は〇〇です。」と言い合うところからはじめた彼ら・彼女らですが、今やいつも冗談と笑い声がひびくにぎやかなクラスになりました。

6 月からはじめた教科学習のクラスでも、中国とタイ出身の子が英語の文法問題を前に日本語で理解を確認しあう、という光景が見られます。

そんな日本語 2 で勉強していた Rくんが、母国へ帰ることになりました。

Rくんはムードメーカーなので、みんな彼との別れを惜しんでいました。Rくんも母国に帰れるうれしさ半分、みんなと別れるさびしさ半分。最後にみんなに手紙を書いてくれました。

「たぶんかフリースクールはとてもおもしろいです。せんせいはとてもいいです。わたしはたのしいです。わたしみなさんととてもさびしいです。さよならみなさん、きをつけてね！」

たった 2 ヶ月だったけど、日本に来てすぐの不安な日々を一緒にがんばったみんなは、もう友達なんですね。

これからも Facebook に多文化共生センター東京の日常を投稿していきます。皆様「いいね！」をよろしくお願いいたします。